※ポリシーとの関連性 現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

/演習] 科目名 期別 曜日・時限 単 位 相談援助演習IV 目 通年 火2 4 基 本情 担当者 対象年次 授業に関する問い合わせ -仲村 小夜子 授業終了後に受け付けます。 3年 問い合わせは教員のE-mailへしてください。

ねらい

地域社会資源の開発および地域ネットワーキング、コーディネーションについて専門知識や技術を身につける。また、相談援助実習で学んだことをジェネラリストソーシャルワークの視点から振り返りつつ、相談援助演習のまとめを行う。

メッセージ

相談援助演習は  $\mathbf{I} \cdot \mathbf{II} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{IV}$ を通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習  $\mathbf{I} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{IV}$ と相談援助実習指導  $\mathbf{I} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{III}$ が連続していることを意識しつつ講義に参加してください。

ディスカッションをまとめる

個別発表の準備をする

個別発表の準備をする

個別発表の準備をする

配布資料を要約する

配布資料を読み込む

配布資料を読み込む

相談援助演習の総まとめを行う

課題に取り組む

課題に取り組む

到達目標

学びのヒント 授業計画

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

まとめ

実習での学びをふりかえる③個別発表(4)

実習での学びをふりかえる③個別発表(5)

実習での学びをふりかえる③個別発表(6)

実習での学びをふりかえる③個別発表(7)

ソーシャルワーカーの価値・倫理①

ソーシャルワーカーの価値・倫理②

他の職種との連携・協働の意義

スーパービジョンの意義、方法

ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題

 $\mathcal{O}$ 

準

備

相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる

口 テーマ 時間外学習の内容 オリエンテーション:ゼミの概要説明。地域資源 配布資料を読み込む アセスメント①:地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握 2 グループ発表の準備をする グループ発表の準備をする アセスメント②:地域アセスメントの方法 3 アセスメント③:地域アセスメントのプロセス グループ発表の準備をする 5 プランニング①:エンパワメント志向のプランニング~地域住民や当事者のストレングス グループ発表の準備をする プランニング②:地域福祉計画の策定 グループ発表の準備をする 6 7 活動・プログラムの実施①事例検討 課題(事例検討)に取り組む 8 活動・プログラムの実施②事例検討 課題(事例検討)に取り組む 9 評価:活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割 課題(事例検討)に取り組む 10 ネットワーキング:事例を通して地域の社会資源のネットワーキングの手法を理解する グループ発表の準備をする 社会資源の活用・調整:事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する グループ発表の準備をする 11 学 グループ発表の準備をする |社会資源の開発:新たに社会資源を開発する方法について理解する 12 ソーシャルアクション:事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する グループ発表の準備をする 75 13 ミクロ・メゾ・マクロの視点:相談援助実習時の課題について理解する レポート課題に取り組む 14 T 前期まとめ 前期のまとめを行う 15 後期オリエンテーション:演習の概要説明。実習のふりかえり 実習時の課題を振り返る 16 実 実習での学びをふりかえる①課題整理 ディスカッションをまとめる 17 践 実習での学びをふりかえる②課題整理 ディスカッションをまとめる 18 19 実習での学びをふりかえる③個別発表(1) 分野別発表の準備をする 20 実習での学びをふりかえる③個別発表(2) 分野別発表の準備をする 21 実習での学びをふりかえる③個別発表(3) ディスカッションをまとめる

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配付する。

学

学びの手立て

地域の社会資源を発掘、発展する技術について理解を深めましょう。相談援助実習で学んだことを分析する力を 身につけましょう。積極的にボランティアをして視野を広げましょう。

びの

実

践

評価

講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%

次のステージ・関連科目

相談援助演習の集大成をしっかり行い、社会福祉学研究および卒業後のキャリアにつなげられるようにする。

学びの継続

/演習] 科目名 期別 曜日・時限 単 位 相談援助演習IV 目 通年 火2 4 基 本情 担当者 対象年次 授業に関する問い合わせ -宮城 美智子 授業終了後に受け付けます。 3年 問い合わせは教員のE-mailへしてください。

ねらい

学

び

 $\mathcal{O}$ 

準

備

地域社会資源の開発および地域ネットワーキング、コーディネーションについて専門知識や技術を身につける。また、相談援助実習で学んだことをジェネラリストソーシャルワークの視点から振り返り つつ、相談援助演習のまとめを行う。

メッセージ

相談援助演習は  $\mathbf{I} \cdot \mathbf{II} \cdot \mathbf{II} \cdot \mathbf{IV}$ を通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習  $\mathbf{I} \cdot \mathbf{II} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{IV}$ と相談援助実習指導  $\mathbf{I} \cdot \mathbf{II} \cdot \mathbf{III}$ が 連続していることを意識しつつ講義に参加してください。

## 到達目標

相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる

学びのヒント 授業計画 口 テーマ 時間外学習の内容 オリエンテーション:ゼミの概要説明。地域資源 配布資料を読み込む アセスメント①:地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握 2 グループ発表の準備をする グループ発表の準備をする アセスメント②:地域アセスメントの方法 3 アセスメント③:地域アセスメントのプロセス グループ発表の準備をする 5 プランニング①:エンパワメント志向のプランニング~地域住民や当事者のストレングス グループ発表の準備をする プランニング②:地域福祉計画の策定 グループ発表の準備をする 6 7 活動・プログラムの実施①事例検討 課題(事例検討)に取り組む 8 活動・プログラムの実施②事例検討 課題(事例検討)に取り組む 9 評価:活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割 課題(事例検討)に取り組む 10 ネットワーキング:事例を通して地域の社会資源のネットワーキングの手法を理解する グループ発表の準備をする 社会資源の活用・調整:事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する グループ発表の準備をする 11 学 グループ発表の準備をする |社会資源の開発:新たに社会資源を開発する方法について理解する 12 ソーシャルアクション:事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する グループ発表の準備をする 75 13 ミクロ・メゾ・マクロの視点:相談援助実習時の課題について理解する レポート課題に取り組む 14 T 前期まとめ 前期のまとめを行う 15 後期オリエンテーション:演習の概要説明。実習のふりかえり 実習時の課題を振り返る 16 実 実習での学びをふりかえる①課題整理 ディスカッションをまとめる 17 践 実習での学びをふりかえる②課題整理 ディスカッションをまとめる 18 19 実習での学びをふりかえる③個別発表(1) 分野別発表の準備をする 20 実習での学びをふりかえる③個別発表(2) 分野別発表の準備をする 21 実習での学びをふりかえる③個別発表(3) ディスカッションをまとめる 22 実習での学びをふりかえる③個別発表(4) ディスカッションをまとめる 実習での学びをふりかえる③個別発表(5) 個別発表の準備をする 23 実習での学びをふりかえる③個別発表(6) 個別発表の準備をする 24 実習での学びをふりかえる③個別発表(7) 25 個別発表の準備をする ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題 26 配布資料を要約する 27 ソーシャルワーカーの価値・倫理① 配布資料を読み込む ソーシャルワーカーの価値・倫理② 28 配布資料を読み込む 29 他の職種との連携・協働の意義 課題に取り組む 30 スーパービジョンの意義、方法 課題に取り組む まとめ 31 相談援助演習の総まとめを行う テキスト・参考文献・資料など

特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配付する。

学

学びの手立て

地域の社会資源を発掘、発展する技術について理解を深めましょう。相談援助実習で学んだことを分析する力を 身につけましょう。積極的にボランティアをして視野を広げましょう。

びの

実

践

評価

講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%

次のステージ・関連科目

相談援助演習の集大成をしっかり行い、社会福祉学研究および卒業後のキャリアにつなげられるようにする。

学びの継続

/演習] 単 位 科目名 期別 曜日•時限 相談援助演習IV 通年 目 火 2 4 基本情 担当者 対象年次 授業に関する問い合わせ 荻野 太司 授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。 3年 報

ねらい

地域社会資源の開発および地域ネットワーキング、コーディネーションについて専門知識や技術を身につける。また、相談援助実習で学んだことをジェネラリストソーシャルワークの視点から振り返りつつ、相談援助演習のまとめを行う。 学

び 0

準

備

メッセージ

相談援助演習は  $\mathbf{I} \cdot \mathbf{II} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{IV}$ を通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習  $\mathbf{I} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{IV}$ と相談援助実習指導  $\mathbf{I} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{III}$ が連続していることを意識しつつ講義に参加してください。

到達目標

相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる

H			
	学で	ドのヒント	
		授業計画	
	口	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション:ゼミの概要説明。地域資源	
	2	アセスメント①:地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握	グループ発表の準備をする
	3	アセスメント②: 地域アセスメントの方法	グループ発表の準備をする
	4	アセスメント③:地域アセスメントのプロセス	グループ発表の準備をする
	5	プランニング①:エンパワメント志向のプランニング〜地域住民や当事者のストレングス	グループ発表の準備をする
	6	プランニング②:地域福祉計画の策定	グループ発表の準備をする
	7	活動・プログラムの実施①事例検討	課題(事例検討)に取り組む
	8	活動・プログラムの実施②事例検討	課題(事例検討)に取り組む
	9	評価:活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割	課題(事例検討)に取り組む
	10	ネットワーキング:事例を通して地域の社会資源のネットワーキングの手法を理解する	グループ発表の準備をする
学	11	社会資源の活用・調整:事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する	グループ発表の準備をする
子	12	社会資源の開発:新たに社会資源を開発する方法について理解する	グループ発表の準備をする
び	13	ソーシャルアクション:事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する	グループ発表の準備をする
	14	ミクロ・メゾ・マクロの視点:相談援助実習時の課題について理解する	レポート課題に取り組む
の	15	前期まとめ	前期のまとめを行う
実	16	後期オリエンテーション:演習の概要説明。実習のふりかえり	実習時の課題を振り返る
	17	実習での学びをふりかえる①課題整理	ディスカッションをまとめる
践	18	実習での学びをふりかえる②課題整理	ディスカッションをまとめる
	19	実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	分野別発表の準備をする
	20	実習での学びをふりかえる③個別発表(2)	分野別発表の準備をする
	21	実習での学びをふりかえる③個別発表(3)	ディスカッションをまとめる
	22	実習での学びをふりかえる③個別発表(4)	ディスカッションをまとめる
	23	実習での学びをふりかえる③個別発表(5)	個別発表の準備をする
	24	実習での学びをふりかえる③個別発表(6)	個別発表の準備をする
	25	実習での学びをふりかえる③個別発表(7)	個別発表の準備をする
	26	ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	配布資料を要約する
	27	ソーシャルワーカーの価値・倫理①	配布資料を読み込む
	28	ソーシャルワーカーの価値・倫理②	配布資料を読み込む
	29	他の職種との連携・協働の意義	課題に取り組む
	30	スーパービジョンの意義、方法	課題に取り組む
	31	まとめ	相談援助演習の総まとめを行う

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配付する。

学

学びの手立て

地域の社会資源を発掘、発展する技術について理解を深めましょう。相談援助実習で学んだことを分析する力を 身につけましょう。積極的にボランティアをして視野を広げましょう。

びの

実

践

評価

講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%

次のステージ・関連科目

相談援助演習の集大成をしっかり行い、社会福祉学研究および卒業後のキャリアにつなげられるようにする。

学びの継続

/演習] 単 位 科目名 期別 曜日•時限 相談援助演習IV 通年 目 火 2 4 基本情 担当者 対象年次 授業に関する問い合わせ 樋口 美智子 授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。 3年 報

ねらい

地域社会資源の開発および地域ネットワーキング、コーディネーションについて専門知識や技術を身につける。また、相談援助実習で学んだことをジェネラリストソーシャルワークの視点から振り返りつつ、相談援助演習のまとめを行う。 学 び

0

準

備

メッセージ

相談援助演習は  $\mathbf{I} \cdot \mathbf{II} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{IV}$ を通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習  $\mathbf{I} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{IV}$ と相談援助実習指導  $\mathbf{I} \cdot \mathbf{III} \cdot \mathbf{III}$ が連続していることを意識しつつ講義に参加してください。

到達目標

相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる

H			
	学で	ドのヒント	
		授業計画	
	口	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション:ゼミの概要説明。地域資源	
	2	アセスメント①:地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握	グループ発表の準備をする
	3	アセスメント②: 地域アセスメントの方法	グループ発表の準備をする
	4	アセスメント③:地域アセスメントのプロセス	グループ発表の準備をする
	5	プランニング①:エンパワメント志向のプランニング〜地域住民や当事者のストレングス	グループ発表の準備をする
	6	プランニング②:地域福祉計画の策定	グループ発表の準備をする
	7	活動・プログラムの実施①事例検討	課題(事例検討)に取り組む
	8	活動・プログラムの実施②事例検討	課題(事例検討)に取り組む
	9	評価:活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割	課題(事例検討)に取り組む
	10	ネットワーキング:事例を通して地域の社会資源のネットワーキングの手法を理解する	グループ発表の準備をする
学	11	社会資源の活用・調整:事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する	グループ発表の準備をする
子	12	社会資源の開発:新たに社会資源を開発する方法について理解する	グループ発表の準備をする
び	13	ソーシャルアクション:事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する	グループ発表の準備をする
	14	ミクロ・メゾ・マクロの視点:相談援助実習時の課題について理解する	レポート課題に取り組む
の	15	前期まとめ	前期のまとめを行う
実	16	後期オリエンテーション:演習の概要説明。実習のふりかえり	実習時の課題を振り返る
	17	実習での学びをふりかえる①課題整理	ディスカッションをまとめる
践	18	実習での学びをふりかえる②課題整理	ディスカッションをまとめる
	19	実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	分野別発表の準備をする
	20	実習での学びをふりかえる③個別発表(2)	分野別発表の準備をする
	21	実習での学びをふりかえる③個別発表(3)	ディスカッションをまとめる
	22	実習での学びをふりかえる③個別発表(4)	ディスカッションをまとめる
	23	実習での学びをふりかえる③個別発表(5)	個別発表の準備をする
	24	実習での学びをふりかえる③個別発表(6)	個別発表の準備をする
	25	実習での学びをふりかえる③個別発表(7)	個別発表の準備をする
	26	ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	配布資料を要約する
	27	ソーシャルワーカーの価値・倫理①	配布資料を読み込む
	28	ソーシャルワーカーの価値・倫理②	配布資料を読み込む
	29	他の職種との連携・協働の意義	課題に取り組む
	30	スーパービジョンの意義、方法	課題に取り組む
	31	まとめ	相談援助演習の総まとめを行う

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配付する。

学

学びの手立て

地域の社会資源を発掘、発展する技術について理解を深めましょう。相談援助実習で学んだことを分析する力を 身につけましょう。積極的にボランティアをして視野を広げましょう。

びの

実

践

評価

講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%

次のステージ・関連科目

相談援助演習の集大成をしっかり行い、社会福祉学研究および卒業後のキャリアにつなげられるようにする。

学びの継続

とが主たる目的である

実習計画書を作成す

	この語が、より付けにこれがとれてはいけんだっている。	12/1/2 / 00	L /.	
科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailにしてぐ	ください。

メッセージ

ねらい

本科目は、 本行日は、他飲食の美育の事間子育を行うことが主にる目的にの。 実習配属先の理念、方針、法的根拠、利用者および家族の理解、 施設(機関)、職員、地域を学習する。また、実習計画書を作成っ る。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても再確認する。

び

 $\sigma$ 準

到達目標

相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。

相談後切美育に同りて、昨日の社芸福祉政界や伝師長の動門を理解することができる。 実習機関/施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。 実習機関/施設が地域社会の中の機関/施設であることを理解することができる。

相談援助実習の事前学習を行う

## 学びのヒント

#### 授業計画

ш			 	

- 1 |オリエンテーション①:相談援助実習・実習指導における学習方法や学習形態、学習内容について
- |オリエンテーション②:相談援助実習の意義、評価の内容と仕組みについて
- オリエンテーション③:スーパービジョンの意義及び構造について
- 実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解
- 実習機関・施設における関連業務(介護等)の基本的理解、関連職種の配置や業務について
- 実習機関・施設の利用者及び家族の理解 6
- 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解 7
- 8 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解
- 9 「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解①
- 10 「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解②
- 「実習計画」の作成方法について① 11
- 「実習計画」の作成方法について② 12
- 「個別支援計画」について① 13
- 14 「個別支援計画」について②
- 15 事前訪問の準備

U

実

践

まとめ:実習前最終確認 16

# 時間外学習の内容

ミニレポートの作成

ソーシャルワークの価値、倫理、態度、知識、技術を復習すると共 に、相談援助実習に向けて様々な準備をします。自らの実習テーマ や達成目標に向かって意識を高く持って臨みましょう。

「前年度の実習報告書」を読む

「個人調書」を作成する

担当テーマについてグループ学習

担当テーマについてグループ学習

担当テーマについてグループ学習

倫理綱領、グローバル定義を復習

倫理綱領、グローバル定義を復習

現場体験学習の日誌を振り返る

行事等参加後の日誌を書いてみる

実習テーマを考える

達成目標を考える

「相談援助演習Ⅲ」の復習

「個別支援計画」の事例を調べる

「実習計画書」を修正する

実習の最終確認を行う

テキスト・参考文献・資料など

指定のテキストはありません。随時資料を配布します。

## 学びの手立て

履修の心構え:相談援助実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために:積極的にボランティアを行い視野を拡げましょう。関連文献を読みましょう。

## 評価

グループ発表20%、個別発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%

# 次のステージ・関連科目

相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。

学 Ü  $\mathcal{D}$ 継 続

とが主たる目的である

実習計画書を作成す

	この語が、より、間にこれが、これにいいり、これにいいい。	ICPA / OO	L /	
科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailにして、	ください。

メッセージ

ねらい

本科目は、 本行日は、他飲食の美育の事間子育を行うことが主にる目的にの。 実習配属先の理念、方針、法的根拠、利用者および家族の理解、 施設(機関)、職員、地域を学習する。また、実習計画書を作成っ る。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても再確認する。

び

 $\sigma$ 準

到達目標

相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 相談後切美育に同りて、昨日の社芸福祉政界や伝師長の動門を理解することができる。 実習機関/施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。 実習機関/施設が地域社会の中の機関/施設であることを理解することができる。

相談援助実習の事前学習を行う

## 学びのヒント

#### 授業計画

同
---

|オリエンテーション①:相談援助実習・実習指導における学習方法や学習形態、学習内容について

テーマ

|オリエンテーション②:相談援助実習の意義、評価の内容と仕組みについて

オリエンテーション③:スーパービジョンの意義及び構造について

実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解

実習機関・施設における関連業務(介護等)の基本的理解、関連職種の配置や業務について

実習機関・施設の利用者及び家族の理解 6

実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解 7

8 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解

9 「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解①

10 「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解②

「実習計画」の作成方法について① 11

「実習計画」の作成方法について② 12

「個別支援計画」について① 13

14 「個別支援計画」について②

15 事前訪問の準備

学

U

実

践

まとめ:実習前最終確認 16

時間外学習の内容

ミニレポートの作成

ソーシャルワークの価値、倫理、態度、知識、技術を復習すると共 に、相談援助実習に向けて様々な準備をします。自らの実習テーマ や達成目標に向かって意識を高く持って臨みましょう。

「前年度の実習報告書」を読む

「個人調書」を作成する

担当テーマについてグループ学習

担当テーマについてグループ学習

担当テーマについてグループ学習

倫理綱領、グローバル定義を復習

倫理綱領、グローバル定義を復習

現場体験学習の日誌を振り返る

行事等参加後の日誌を書いてみる

実習テーマを考える

達成目標を考える

「相談援助演習Ⅲ」の復習

「個別支援計画」の事例を調べる

「実習計画書」を修正する

実習の最終確認を行う

テキスト・参考文献・資料など

指定のテキストはありません。随時資料を配布します。

## 学びの手立て

履修の心構え:相談援助実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために:積極的にボランティアを行い視野を拡げましょう。関連文献を読みましょう。

# 評価

グループ発表20%、個別発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%

# 次のステージ・関連科目

相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。

学 Ü  $\mathcal{D}$ 継 続

きる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養		養成する。	[ /:	実験実習]
科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田直子	3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailにしてくだ	

ねらい

 $\sigma$ 

備

学

び

0

実

践

び

本科目は、相談援助実習の事前学習を行うことが主たる目的である。実習配属先の理念、方針、法的根拠、利用者および家族の理解、施設(機関)、職員、地域を学習する。また、実習計画書を作成する。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても再確認する。

メッセージ

ソーシャルワークの価値、倫理、態度、知識、技術を復習すると共 に、相談援助実習に向けて様々な準備をします。自らの実習テーマ や達成目標に向かって意識を高く持って臨みましょう。

実習の最終確認を行う

到達目標

準

相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 実習機関/施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。 実習機関/施設が地域社会の中の機関/施設であることを理解することができる。

## 学びのヒント

## 授業計画

を読む
<u></u>
レープ学習
レープ学習
レープ学習
 定義を復習
 定義を復習
長り返る
<b></b> 小てみる
复習
列を調べる
<b>する</b>

テキスト・参考文献・資料など

16 まとめ: 実習前最終確認

指定のテキストはありません。随時資料を配布します。

# 学びの手立て

履修の心構え:相談援助実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために:積極的にボランティアを行い視野を拡げましょう。関連文献を読みましょう。

## 評価

グループ発表20%、個別発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%

# 次のステージ・関連科目

相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。

	C 0 20 (10) 10	1C/9C / DO		
本	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailにしてぐ	ください。

実習計画書を作成す

メッセージ

ねらい

本科目は、 本行日は、作政後の美育の事間子育を刊りことが主にる目的との。 実習配属先の理念、方針、法的根拠、利用者および家族の理解、 施設(機関)、職員、地域を学習する。また、実習計画書を作成で る。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても再確認する。

び

 $\sigma$ 準

学

U

実

践

到達目標

相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。

相談後切美育に同りて、昨日の社芸福祉政界や伝師長の動門を理解することができる。 実習機関/施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。 実習機関/施設が地域社会の中の機関/施設であることを理解することができる。

相談援助実習の事前学習を行うことが主たる目的である

## 学びのヒント

#### 授業計画

口 テーマ |オリエンテーション①:相談援助実習・実習指導における学習方法や学習形態、学習内容について

|オリエンテーション②:相談援助実習の意義、評価の内容と仕組みについて

オリエンテーション③:スーパービジョンの意義及び構造について

実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解

実習機関・施設における関連業務(介護等)の基本的理解、関連職種の配置や業務について

実習機関・施設の利用者及び家族の理解 6

実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解 7

8 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解

9 「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解①

10 「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解②

「実習計画」の作成方法について① 11

「実習計画」の作成方法について② 12

「個別支援計画」について① 13

14 「個別支援計画」について②

15 事前訪問の準備

まとめ: 実習前最終確認 16

時間外学習の内容

ミニレポートの作成

ソーシャルワークの価値、倫理、態度、知識、技術を復習すると共 に、相談援助実習に向けて様々な準備をします。自らの実習テーマ や達成目標に向かって意識を高く持って臨みましょう。

「前年度の実習報告書」を読む

「個人調書」を作成する

担当テーマについてグループ学習

担当テーマについてグループ学習

担当テーマについてグループ学習

倫理綱領、グローバル定義を復習

倫理綱領、グローバル定義を復習

現場体験学習の日誌を振り返る

行事等参加後の日誌を書いてみる

実習テーマを考える

達成目標を考える

「相談援助演習Ⅲ」の復習

「個別支援計画」の事例を調べる

「実習計画書」を修正する

実習の最終確認を行う

テキスト・参考文献・資料など

指定のテキストはありません。随時資料を配布します。

## 学びの手立て

履修の心構え:相談援助実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために:積極的にボランティアを行い視野を拡げましょう。関連文献を読みましょう。

# 評価

グループ発表20%、個別発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%

# 次のステージ・関連科目

相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。

学 Ü  $\mathcal{D}$ 継 続

医療・保健・福祉の連携や、多職種と協働できる社会福祉専門職のあり方について、具体的かつ実際的に理解することができる。 ※ポリシーとの関連性 /宝駘宝翌]

	25 7 5 1 C 7 1 F3 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	9 1 2 7 2 9 0		ノいのくノく 口 」
科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	担当者 比嘉 昌哉	3年	授業の最後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてぐ	ください。

メッセージ

ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。

ねらい

ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等について理解する。 学

び

 $\sigma$ 

到達目標

準

備

実習を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。

# 学びのヒント

## 授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
2	実習成果の確認及び整理(グループ)①:「最も印象に残っている日誌の記録」について	 ディスカッションを分析する
3	実習成果の確認及び整理(グループ)②:「担当(陪席)した面接の記録」について	ディスカッションを分析する
4	実習成果の確認及び整理 (グループ) ③:「個別支援計画 (事例のまとめ)」について	ディスカッションを分析する
5	実習成果の確認及び整理(個別)①:「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
6	実習成果の確認及び整理(個別)②:「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
7	実習成果の確認及び整理(個別)③:「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
8	相談援助実習ゼミ報告会①:実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
9	相談援助実習ゼミ報告会②:実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
10	相談援助実習ゼミ報告会③:実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
11	合同実習報告会:実習の評価全体総括	 ディスカッションを分析する
12	実習総括レポート(報告書)作成の意義と作成方法について	報告書を作成する
$\frac{1}{13}$	報告書作成①	報告書を作成する
14	報告書作成②	報告書を作成する
15	報告書作成③	報告書を作成する
16	まとめ・実習指導者との交流会	今後の学習課題や進路を考える

## テキスト・参考文献・資料など

テキスト: 『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法 I 』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法 II 』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

# 学びの手立て

本科目は相談援助実習の事後学習として位置付けることができます。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができるよう、文献学習を行うとともに、学外での研修会や講演会に 専門的援助技 も積極的に参加しましょう。

## 評価

実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%

# 次のステージ・関連科目

相談援助演習IV、その他関連科目の理解につなげる。

学び  $\mathcal{O}$ 継 続

び

 $\mathcal{O}$ 

実

践

福祉・医療・保健の連携や、多職種と協働できる社会福祉専門職のあり方について、具体的かつ実際的に理解することができる。 ※ポリシーとの関連性 /実験実習]

<b>€</b> 1	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
本	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者 岩田 直子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	授業の最後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへして<	ください。

メッセージ

実習で得た知識や経験を通して、ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。

ねらい

学

び

 $\sigma$ 

備

学

び

0

実

践

到達目標

準

ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等について理解する。

実習を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。

### 学びのヒント

#### 授業計画

□	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
2	実習成果の確認及び整理 (グループ) ①:「最も印象に残っている日誌の記録」について	ディスカッションを分析する
3	実習成果の確認及び整理(グループ)②:「担当(陪席)した面接の記録」について	ディスカッションを分析する
4	実習成果の確認及び整理 (グループ) ③:「個別支援計画 (事例のまとめ)」について	ディスカッションを分析する
5	実習成果の確認及び整理(個別)①:「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
6	実習成果の確認及び整理(個別)②:「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
7	実習成果の確認及び整理(個別)③:「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
8	相談援助実習ゼミ報告会①:実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
9	相談援助実習ゼミ報告会②:実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
10	相談援助実習ゼミ報告会③:実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
11	合同実習報告会:実習の評価全体総括	ディスカッションを分析する
12	実習総括レポート(報告書)作成の意義と作成方法について	報告書を作成する
13	報告書作成①	報告書を作成する
14	報告書作成②	報告書を作成する
15	報告書作成③	報告書を作成する
16	まとめ・実習指導者との交流会	今後の学習課題や進路を考える

## テキスト・参考文献・資料など

テキスト: 『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法 I 』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法 II 』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

# 学びの手立て

本科目は相談援助実習の事後学習として位置付けることができます。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができるよう、文献学習を行うとともに、学外での研修会や講演会に 専門的援助技 も積極的に参加しましょう。

## 評価

実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%

# 次のステージ・関連科目

相談援助演習IV、その他関連科目の理解につなげる。

学び  $\mathcal{O}$ 継 続

医療・保健・福祉の連携や、多職種と協働できる社会福祉専門職のあり方について、具体的かつ実際的に理解することができる。 ※ポリシーとの関連性 /宝駘宝翌]

<u> </u>		<b>3</b> - <b>3</b> / <b>1 C 3</b> / <b>0</b>		7C-07C7C E1 1
科目基	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	火3	2
本	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	•
情報	担当者 荻野 太司	3年	授業の最後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへして、	ください。

メッセージ

ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。

ねらい

ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等について理解する。 学

び

 $\sigma$ 

到達目標

準

備

実習を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。

### 学びのヒント

## 授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
2	実習成果の確認及び整理 (グループ) ①:「最も印象に残っている日誌の記録」について	ディスカッションを分析する
3	実習成果の確認及び整理 (グループ) ②:「担当 (陪席) した面接の記録」について	ディスカッションを分析する
4	実習成果の確認及び整理 (グループ) ③:「個別支援計画(事例のまとめ)」について	ディスカッションを分析する
5	実習成果の確認及び整理(個別)①:「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
6	実習成果の確認及び整理(個別)②:「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
7	実習成果の確認及び整理(個別)③:「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
8	相談援助実習ゼミ報告会①:実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
9	相談援助実習ゼミ報告会②:実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
10	相談援助実習ゼミ報告会③:実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
11	合同実習報告会:実習の評価全体総括	ディスカッションを分析する
12	実習総括レポート (報告書) 作成の意義と作成方法について	報告書を作成する
$\frac{1}{13}$	報告書作成①	報告書を作成する
14	報告書作成②	報告書を作成する
$\frac{1}{15}$	報告書作成③	報告書を作成する
16	まとめ・実習指導者との交流会	今後の学習課題や進路を考える

## テキスト・参考文献・資料など

テキスト: 『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法 I 』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法 II 』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

# 学びの手立て

本科目は相談援助実習の事後学習として位置付けることができます。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができるよう、文献学習を行うとともに、学外での研修会や講演会に 専門的援助技 も積極的に参加しましょう。

## 評価

実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%

# 次のステージ・関連科目

相談援助演習IV、その他関連科目の理解につなげる。

学び  $\mathcal{O}$ 継 続

び

 $\mathcal{O}$ 

実

践

医療・保健・福祉の連携や、多職種と協働できる社会福祉専門職の あり方について、具体的かつ実際的に理解することができる。 ※ポリシーとの関連性 /実験実習]

				> * * * * > *
科目	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
本	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	•
情報	樋口 美智子	3年	授業の最後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてく	ください。

メッセージ

ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。

ねらい

学

び  $\sigma$ 

備

び

 $\mathcal{O}$ 

実

践

到達目標 準

ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等について理解する。

実習を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。

### 学びのヒント

## 授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
2	実習成果の確認及び整理 (グループ) ①:「最も印象に残っている日誌の記録」について	ディスカッションを分析する
3	実習成果の確認及び整理 (グループ) ②:「担当 (陪席) した面接の記録」について	ディスカッションを分析する
4	実習成果の確認及び整理 (グループ) ③:「個別支援計画(事例のまとめ)」について	ディスカッションを分析する
5	実習成果の確認及び整理(個別)①:「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
6	実習成果の確認及び整理(個別)②:「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
7	実習成果の確認及び整理(個別)③:「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
8	相談援助実習ゼミ報告会①:実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
9	相談援助実習ゼミ報告会②:実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
10	相談援助実習ゼミ報告会③:実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
11	合同実習報告会:実習の評価全体総括	ディスカッションを分析する
12	実習総括レポート (報告書) 作成の意義と作成方法について	報告書を作成する
$\frac{1}{13}$	報告書作成①	報告書を作成する
14	報告書作成②	報告書を作成する
$\frac{1}{15}$	報告書作成③	報告書を作成する
16	まとめ・実習指導者との交流会	今後の学習課題や進路を考える

## テキスト・参考文献・資料など

テキスト: 『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法 I 』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法 II 』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

# 学びの手立て

本科目は相談援助実習の事後学習として位置付けることができます。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができるよう、文献学習を行うとともに、学外での研修会や講演会に 専門的援助技 も積極的に参加しましょう。

## 評価

実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%

# 次のステージ・関連科目

相談援助演習IV、その他関連科目の理解につなげる。

学び  $\mathcal{O}$ 継 続

/演習] 科目名 期別 曜日・時限 単 位 ソーシャルワーク演習 目 後期 火 5 2 基 本情 担当者 対象年次 授業に関する問い合わせ 樋口 美智子 授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは各教員のE-mailにしてください。 1年

ねらい

 $\sigma$ 

備

学

び

0

実

践

び

を涵養する。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する ③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う

社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力

メッセージ

本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本を学ぶ。専門用語の意味を頭で理解するだけではなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプーイング等)を中心とする演習形態により 行う。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深

各自の学びを評価し共有する

#### 到達目標

準 ①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。

②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。

-クの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏ま

## 学びのヒント

## 授業計画

1 40	AANTELE.				
回	テーマ	時間外学習の内容			
1	オリエンテーション~本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する~	ソーシャルワークとは何か調べる			
2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる			
3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる			
4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる			
5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む			
6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる			
7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む			
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる			
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む			
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる			
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む			
12	ソーシャルワークの記録:支援経過の把握と管理	記録について調べる			
, 13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる			
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む			
15	プレゼンテーション技術:個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる			

## テキスト・参考文献・資料など

16 まとめと振り返り

テキスト:特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。

## 学びの手立て

①履修の心構え:受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資 格関連科目と連動する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。
②学びを深めるために:本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野(障害・児童

・地域・医療等)で体験することを薦める。

# 評価

※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

## 次のステージ・関連科目

本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習 I、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。

	でも見からが同性と能力を水体間だだがりと	K/K ) Do	L	/ 1円 日 」
~·!	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
基本	ソーシャルワーク演習	後期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	1年	授業終了後に教室で受け付けます。 せは各教員のE-mailにしてください	問い合わ `。

ねらい

①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏ま

 $\sigma$ 

備

学

び

0

実

践

び

を涵養する。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する

③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う

社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力

メッセージ

本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本を学ぶ。専門用語の意味を頭で理解するだけではなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプーイング等)を中心とする演習形態により 行う。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深 めていこう。

/油型]

## 到達目標

準 ①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。

②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。

## 学びのヒント

#### 授業計画

1 4					
回	テーマ	時間外学習の内容			
1	オリエンテーション~本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する~	ソーシャルワークとは何か調べる			
2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる			
3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる			
4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる			
5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む			
6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる			
7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む			
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる			
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む			
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる			
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む			
12	ソーシャルワークの記録:支援経過の把握と管理	記録について調べる			
13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる			
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む			
15	プレゼンテーション技術:個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる			
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する			

## テキスト・参考文献・資料など

テキスト:特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。

# 学びの手立て

①履修の心構え:受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動

する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。 ②学びを深めるために:本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野(障害・児童・地域・医療等)で体験することを薦める。

# 評価

※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

# 次のステージ・関連科目

本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習 I、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。

/演習] 科目名 期別 曜日・時限 単 位 ソーシャルワーク演習 目 後期 火 5 2 基 本情 担当者 対象年次 授業に関する問い合わせ 知名 孝 授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは各教員のE-mailにしてください。 報 1年

メッセージ

ねらい

び

 $\sigma$ 

備

学

び

0

実

践

社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力 を涵養する。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する

-シャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏ま

③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う

本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本を学ぶ。専門用語の意味を頭で理解するだけではなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプーイング等)を中心とする演習形態により 行う。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深

各自の学びを評価し共有する

到達目標

準

①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。

②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。

#### 学びのヒント

#### 授業計画

12	[2天日世]					
回	テーマ	時間外学習の内容				
1	オリエンテーション~本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する~	ソーシャルワークとは何か調べる				
2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる				
3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる				
4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる				
5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む				
6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる				
7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む				
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる				
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む				
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる				
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む				
12	ソーシャルワークの記録:支援経過の把握と管理	記録について調べる				
13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる				
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む				
15	プレゼンテーション技術:個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる				

テキスト・参考文献・資料など

16 まとめと振り返り

テキスト:特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。

## 学びの手立て

①履修の心構え:受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動

する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。 ②学びを深めるために:本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野(障害・児童

・地域・医療等)で体験することを薦める。

# 評価

※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

## 次のステージ・関連科目

本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習 I、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。

/演習] 科目名 期別 曜日・時限 単 位 ソーシャルワーク演習 目 後期 火 5 2 基 本情 担当者 対象年次 授業に関する問い合わせ 岩田 直子 授業終了後に教室で受け付けます。『 せは各教員のE-mailにしてください。 報 1年 問い合わ

ねらい

び

 $\sigma$ 

備

び

 $\mathcal{O}$ 

実

践

を涵養する。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する ③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う

社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力

メッセージ

本演習では、ソーシャルワーカーの基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけではなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプーイング等)を中心とする演習形態により行います。 社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めて いきましょう。

各自の学びを評価し共有する

#### 到達目標

準 ①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。

②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。

-クの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏ま

## 学びのヒント

## 授業計画

□	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション~本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する~	ソーシャルワークとは何か調べる
2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる
3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる
4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる
5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む
6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる
7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む
12	ソーシャルワークの記録:支援経過の把握と管理	記録について調べる
$\frac{1}{13}$	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む
15	プレゼンテーション技術:個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる

# テキスト・参考文献・資料など

16 まとめと振り返り

テキスト:特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。

## 学びの手立て

①履修の心構え:受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動

する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。 ②学びを深めるために:本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野(障害・児童

・地域・医療等)で体験することを薦める。

# 評価

※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

## 次のステージ・関連科目

本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。

※ポリシーとの関連性 現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。 /演習]

	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
月月日	コーシャルワーク演習(専門) I       担当者       -平良 純子	前期	火1	2
本	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	•
情	了 -平良 純子 }	2年	各教員にE-mailで連絡してください 連絡先は授業初回で提示します。	, \ <sub>o</sub>

ねらい

び

 $\sigma$ 

準

備

び

 $\mathcal{O}$ 

実

践

①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能 力を習得する。 ②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し 倫理的な判断能力を養う。

メッセージ

ソーシャルワーク実習前の学習体験として、個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態(情報検索・ブレーンストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等)によりでいます。 社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。

#### 到達目標

具体的な事例等(集団に対する事例含む。)を活用し、支援をする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について 実践的に理解し、習得します。

#### 学びのヒント

## 授業計画

巨	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション〜他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する〜	利用者理解の方法について調べる
2	ソーシャルワークの目的と使命、価値規範と倫理	利用者理解の方法について調べる
3	社会福祉士の実践を理解する①虐待(児童)	実習機関・施設の動向を調べる
4	社会福祉士の実践を理解する②虐待 (障害者)	実習機関・施設の動向を調べる
5	社会福祉士の実践を理解する③虐待(高齢者等)	利用者の動向や利用状況を調べる
6	社会福祉士の実践を理解する④ひきこもり	利用者の動向や利用状況を調べる
7	社会福祉士の実践を理解する⑤貧困	グループ発表の準備をする
8	社会福祉士の実践を理解する⑥認知症	グループ発表の準備をする
9	社会福祉士の実践を理解する⑦終末期ケア	ボランティア活動を行う
10	社会福祉士の実践を理解する⑧災害時	ボランティア活動を行う
11	社会福祉士の実践を理解する⑨その他の危機状態にある事例(権利擁護活動)	ボランティア活動の発表準備を行う
12	社会福祉士の実践を理解する⑩更生保護	ボランティア活動の発表準備を行う
$\frac{1}{1}$	社会福祉士の実践を理解する⑪多文化・国際社会福祉	レポート課題に取り組む
14	社会福祉士の実践を理解する⑫地域福祉(社会福祉協議会)	レポート課題に取り組む
$\frac{-}{15}$	社会福祉士の実践を理解する⑬地域福祉(自治会・NPO法人)	個別面談の準備をする
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する

## テキスト・参考文献・資料など

テキスト:『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワ

一ク教育学校連盟編、中央法規
『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワ ーク教育学校連盟編、中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

# 学びの手立て

①履修の心構え:受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。②学びを深めるために:本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野(障害・児童・地域・医療等)で体験することを薦めます。

## 評価

学 び

 $\mathcal{D}$ 継

続

※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

※評価基準:受講態度(授業への参加)については、ソーシャルプスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。 ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グル

# 次のステージ・関連科目

(1) 関連科目:本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待

します。 (2) 次のステージ: 演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講 模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。 専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で ※ポリシーとの関連性 現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。 /演習]

	C 0 22.7 00 414 12 C 1100 C 3144 - MIN C 1 C 7 C 1 C	20//00		/ //
科目基	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	火1	2
本	担当者 - 宮良 あさの	対象年次	授業に関する問い合わせ	
情報		2年	各教員にE-mailで連絡してください 連絡先は授業初回で提示します。	, , <sub>°</sub>

ねらい

び

 $\sigma$ 

準

備

U

実

践

倫理的な判断能力を養う。

①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門 的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能 力を習得する。 ②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し

メッセージ

ソーシャルワーク実習前の学習体験として、個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態(情報検索・ブレーンストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等)により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。

## 到達目標

具体的な事例等(集団に対する事例含む。)を活用し、支援をする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について 実践的に理解し、習得します。

### 学びのヒント

#### 授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション〜他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する〜	利用者理解の方法について調べる
2	ソーシャルワークの目的と使命、価値規範と倫理	利用者理解の方法について調べる
3	社会福祉士の実践を理解する①虐待(児童)	実習機関・施設の動向を調べる
4	社会福祉士の実践を理解する②虐待 (障害者)	実習機関・施設の動向を調べる
5	社会福祉士の実践を理解する③虐待(高齢者等)	利用者の動向や利用状況を調べる
6	社会福祉士の実践を理解する④ひきこもり	利用者の動向や利用状況を調べる
7	社会福祉士の実践を理解する⑤貧困	グループ発表の準備をする
8	社会福祉士の実践を理解する⑥認知症	グループ発表の準備をする
9	社会福祉士の実践を理解する⑦終末期ケア	ボランティア活動を行う
10	社会福祉士の実践を理解する⑧災害時	ボランティア活動を行う
11	社会福祉士の実践を理解する⑨その他の危機状態にある事例(権利擁護活動)	ボランティア活動の発表準備を行う
学 <u>12</u>	社会福祉士の実践を理解する⑩更生保護	ボランティア活動の発表準備を行う
13	社会福祉士の実践を理解する⑪多文化・国際社会福祉	レポート課題に取り組む
$\left \frac{1}{14}\right $	社会福祉士の実践を理解する⑫地域福祉 (社会福祉協議会)	レポート課題に取り組む
$D = \frac{15}{15}$	社会福祉士の実践を理解する⑬地域福祉(自治会・NPO法人)	個別面談の準備をする
16	まとめと振り返り	 各自の学びを評価し共有する

## テキスト・参考文献・資料など

テキスト:『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワ

ーク教育学校連盟編、中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

# 学びの手立て

①履修の心構え:受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。②学びを深めるために:本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野(障害・児童・地域・医療等)で体験することを薦めます。

## 評価

び

 $\mathcal{D}$ 継 続

※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

※評価基準:受講態度(授業への参加)については、ソーシャルプスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。 ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グル

# 次のステージ・関連科目

(1) 関連科目:本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待

します。 (2) 次のステージ: 演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で 模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。

※ポリシーとの関連性 現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。 /演習]

	C 0 22.7 00 414 12 C 1100 C 3144 - MIN C 1 C 7 C 1 C	20//00		/ //
科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	火1	2
	担当者 - 宮城 美智子	対象年次	授業に関する問い合わせ	•
		2年	各教員にE-mailで連絡してください 連絡先は授業初回で提示します。	, <sub>0</sub>

ねらい

び

 $\sigma$ 

準

備

U

実

践

①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門 的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能

力を習得する。 ②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し 倫理的な判断能力を養う。

メッセージ

ソーシャルワーク実習前の学習体験として、個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態(情報検索・ブレーンストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等)により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。

## 到達目標

具体的な事例等(集団に対する事例含む。)を活用し、支援をする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について 実践的に理解し、習得します。

# 学びのヒント

#### 授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション〜他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する〜	利用者理解の方法について調べる
2	ソーシャルワークの目的と使命、価値規範と倫理	利用者理解の方法について調べる
3	社会福祉士の実践を理解する①虐待(児童)	実習機関・施設の動向を調べる
4	社会福祉士の実践を理解する②虐待 (障害者)	実習機関・施設の動向を調べる
5	社会福祉士の実践を理解する③虐待(高齢者等)	利用者の動向や利用状況を調べる
6	社会福祉士の実践を理解する④ひきこもり	 利用者の動向や利用状況を調べる
7	社会福祉士の実践を理解する⑤貧困	グループ発表の準備をする
8	社会福祉士の実践を理解する⑥認知症	グループ発表の準備をする
9	社会福祉士の実践を理解する⑦終末期ケア	ボランティア活動を行う
10	社会福祉士の実践を理解する⑧災害時	ボランティア活動を行う
11	社会福祉士の実践を理解する⑨その他の危機状態にある事例 (権利擁護活動)	ボランティア活動の発表準備を行う
学 <u>12</u>	社会福祉士の実践を理解する⑩更生保護	ボランティア活動の発表準備を行う
13	社会福祉士の実践を理解する⑪多文化・国際社会福祉	レポート課題に取り組む
$ \tilde{J}  = \frac{13}{14}$	社会福祉士の実践を理解する⑫地域福祉(社会福祉協議会)	レポート課題に取り組む
$D = \frac{15}{15}$	社会福祉士の実践を理解する⑬地域福祉(自治会・NPO法人)	個別面談の準備をする
16	まとめと振り返り	―――― 各自の学びを評価し共有する

## テキスト・参考文献・資料など

テキスト:『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワ

ーク教育学校連盟編、中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

# 学びの手立て

①履修の心構え:受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。②学びを深めるために:本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野(障害・児童・地域・医療等)で体験することを薦めます。

## 評価

び

 $\mathcal{D}$ 継 続

※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

※評価基準:受講態度(授業への参加)については、ソーシャルプスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。 ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グル

# 次のステージ・関連科目

(1) 関連科目:本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待

します。 (2) 次のステージ: 演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で 模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。

科目基	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	火1	2
本	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
情報	担当者 -高江洲 あや子	2年	各教員にE-mailで連絡してください 連絡先は授業初回で提示します。	<b>)</b> °

ねらい

び

 $\sigma$ 

準

備

①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門 的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能

倫理的な判断能力を養う。

力を習得する。 ②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し

メッセージ

ソーシャルワーク実習前の学習体験として、個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態(情報検索・ブレーンストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等)によりでいます。 社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。

## 到達目標

具体的な事例等(集団に対する事例含む。)を活用し、支援をする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について 実践的に理解し、習得します。

#### 学びのヒント

#### 授業計画

	口	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション〜他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する〜	利用者理解の方法について調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命、価値規範と倫理	利用者理解の方法について調べる
	3	社会福祉士の実践を理解する①虐待(児童)	実習機関・施設の動向を調べる
	4	社会福祉士の実践を理解する②虐待 (障害者)	実習機関・施設の動向を調べる
	5	社会福祉士の実践を理解する③虐待(高齢者等)	 利用者の動向や利用状況を調べる
	6	社会福祉士の実践を理解する④ひきこもり	利用者の動向や利用状況を調べる
	7	社会福祉士の実践を理解する⑤貧困	グループ発表の準備をする
	8	社会福祉士の実践を理解する⑥認知症	グループ発表の準備をする
	9	社会福祉士の実践を理解する⑦終末期ケア	ボランティア活動を行う
	10	社会福祉士の実践を理解する⑧災害時	ボランティア活動を行う
	11	社会福祉士の実践を理解する⑨その他の危機状態にある事例(権利擁護活動)	ボランティア活動の発表準備を行う
学	12	社会福祉士の実践を理解する⑩更生保護	ボランティア活動の発表準備を行う
びの	13	社会福祉士の実践を理解する⑪多文化・国際社会福祉	レポート課題に取り組む
	14	社会福祉士の実践を理解する⑫地域福祉(社会福祉協議会)	レポート課題に取り組む
	15	社会福祉士の実践を理解する⑬地域福祉(自治会・NPO法人)	個別面談の準備をする
	16	まとめと振り返り	―――― 各自の学びを評価し共有する

## テキスト・参考文献・資料など

テキスト:『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワ

ーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワ ーク教育学校連盟編、中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

# 学びの手立て

実

践

①履修の心構え:受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。②学びを深めるために:本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野(障害・児童・地域・医療等)で体験することを薦めます。

# 評価

び

 $\mathcal{D}$ 

継

続

※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

※評価基準:受講態度(授業への参加)については、ソーシャルプスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。 ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グル

# 次のステージ・関連科目

(1) 関連科目:本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待

します。 (2) 次のステージ: 演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講 模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。 専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。 ※ポリシーとの関連性 /演習] 科目名 期別 曜日・時限 単 位 ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ 目 後期 火1 2 基 本情 担当者 対象年次 授業に関する問い合わせ -宮良 あさの 各教員にE-mailで連絡すること。 連絡先は授業初回で提示する。 報 2年 メッセージ ねらい ①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と 展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態(情報検索・ブレーンストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ 学 び  $\sigma$ 到達目標 準 ①事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得②利用者、グループ、地域住民等へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解し、説明で③個別支援計画等、様々な計画の策定方法(プランニングまで)を理解し、説明できる。 具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得する。 説明できる。

# 学びのヒント

#### 授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション〜他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する〜	SWのグローバル定義を復習する
2	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について①3つのモデル	実践モデルとアプローチを復習する
3	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について②ミクロ・メゾ・マクロレベル	SWの対象と展開過程を復習する
4	ケースの発見	ケアマネジメントについて調べる
5	エンゲージメント(インテーク)	ケアマネジメント (障害者)
6	アセスメント①アセスメント・ツールの枠組み、使用方法	ケアマネジメント (高齢者)
7	アセスメント②アセスメントのポイント、ニーズの把握	グループ課題の準備をする
8	プランニング①プランニングの様式、ポイント、手順	グループ課題の準備をする
9	プランニング②支援目標・支援計画	グループ発表の準備をする
10	支援の実施①利用者やその関係者との援助関係の形成	グループ発表の準備をする
11	支援の実施②利用者やその関係者への権利擁護及び支援	実践事例について調べる
$\frac{1}{12}$	モニタリング	実践事例について調べる
$\frac{1}{13}$	支援の終結と事後評価①支援内容や計画を評価する目的や方法	個別課題に取り組む
14	支援の終結と事後評価②利用者への支援やサービスの評価	個別課題に取り組む
15	アフターケア	個別課題に取り組む
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する

## テキスト・参考文献・資料など

び

 $\mathcal{O}$ 

実

践

テキスト: 『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育

『最新・社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育 学校連盟編、 中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

## 学びの手立て

①履修の心構え:受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。 ②学びを深めるために:本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野(障害・児童・地域・医療等)で体験することを薦めます。

## 評価

Ü

 $\mathcal{D}$ 

継 続 ※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グル ※評価基準:受講態度(授業への参加)については、ソーシャループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。

- (1) 関連科目:本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待しま
- (2) 次のステージ: 演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で 模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。 ※ポリシーとの関連性 /演習] 科目名 期別 曜日・時限 単 位 ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ 目 後期 火1 2 基 本情 担当者 対象年次 授業に関する問い合わせ -宮城 美智子 各教員にE-mailで連絡すること。 連絡先は授業初回で提示する。 報 2年 メッセージ ねらい ①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と 展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態(情報検索・ブレーンストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ 学 び  $\sigma$ 到達目標 準 ①事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得②利用者、グループ、地域住民等へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解し、説明で③個別支援計画等、様々な計画の策定方法(プランニングまで)を理解し、説明できる。 具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得する。 説明できる。

## 学びのヒント

#### 授業計画

巨	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション〜他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する〜	SWのグローバル定義を復習する
2	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について①3つのモデル	実践モデルとアプローチを復習する
3	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について②ミクロ・メゾ・マクロレベル	SWの対象と展開過程を復習する
$\frac{1}{4}$	ケースの発見	ケアマネジメントについて調べる
5	エンゲージメント(インテーク)	ケアマネジメント (障害者)
6	アセスメント①アセスメント・ツールの枠組み、使用方法	ケアマネジメント (高齢者)
7	アセスメント②アセスメントのポイント、ニーズの把握	グループ課題の準備をする
8	プランニング①プランニングの様式、ポイント、手順	グループ課題の準備をする
9	プランニング②支援目標・支援計画	グループ発表の準備をする
10	) 支援の実施①利用者やその関係者との援助関係の形成	グループ発表の準備をする
1	1 支援の実施②利用者やその関係者への権利擁護及び支援	実践事例について調べる
学 1:	2 モニタリング	実践事例について調べる
, 1	3 支援の終結と事後評価①支援内容や計画を評価する目的や方法	個別課題に取り組む
$ \vec{x}  = \frac{1}{1}$	4 支援の終結と事後評価②利用者への支援やサービスの評価	個別課題に取り組む
$0   \frac{1}{1}$	ラ アフターケア	個別課題に取り組む
	3 まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する
<b>₽</b>   −	<u> </u>	

## テキスト・参考文献・資料など

践

テキスト: 『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育

『最新・社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育 学校連盟編、 中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

## 学びの手立て

①履修の心構え:受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。 ②学びを深めるために:本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野(障害・児童・地域・医療等)で体験することを薦めます。

# 評価

Ü

 $\mathcal{D}$ 

継 続 ※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グル ※評価基準:受講態度(授業への参加)については、ソーシャループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。

- (1) 関連科目:本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待しま
- (2) 次のステージ: 演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で 模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。 ※ポリシーとの関連性 /演習] 科目名 期別 曜日・時限 単 位 ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ 後期 2 火 1 基 本情 担当者 授業に関する問い合わせ 対象年次 -大久保 礼子 各教員にE-mailで連絡すること。 連絡先は授業初回で提示する。 2年 メッセージ ねらい ①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と 個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態(情報検索・ブレーンストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ 展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 び  $\sigma$ 到達目標 準 ①事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得②利用者、グループ、地域住民等へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解し、説明で③個別支援計画等、様々な計画の策定方法(プランニングまで)を理解し、説明できる。 具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得する。 説明できる。

#### 学びのヒント 授業計画 時間外学習の内容 口 テーマ オリエンテーション~他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する~ SWのグローバル定義を復習する ソーシャルワーク方法論と援助の展開について①3つのモデル 実践モデルとアプローチを復習する ソーシャルワーク方法論と援助の展開について②ミクロ・メゾ・マクロレベル SWの対象と展開過程を復習する ケアマネジメントについて調べる ケースの発見 エンゲージメント(インテーク) ケアマネジメント (障害者) アセスメント①アセスメント・ツールの枠組み、使用方法 ケアマネジメント(高齢者) アセスメント②アセスメントのポイント、ニーズの把握 7 グループ課題の準備をする 8 プランニング①プランニングの様式、ポイント、手順 グループ課題の準備をする プランニング②支援目標・支援計画 グループ発表の準備をする 10 支援の実施①利用者やその関係者との援助関係の形成 グループ発表の準備をする 支援の実施②利用者やその関係者への権利擁護及び支援 実践事例について調べる 11 実践事例について調べる 12 モニタリング 13 支援の終結と事後評価①支援内容や計画を評価する目的や方法 個別課題に取り組む 支援の終結と事後評価②利用者への支援やサービスの評価 個別課題に取り組む 14 アフターケア 個別課題に取り組む 15 各自の学びを評価し共有する まとめと振り返り 16

# テキスト・参考文献・資料など

実

践

『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育 学校連盟編、中央法規

『最新・社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育 学校連盟編、 中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

## 学びの手立て

①履修の心構え:受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。②学びを深めるために:本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野(障害・児童・地域・医療等)で体験することを薦めます。

# 評価

Ü

 $\mathcal{D}$ 

継

続

※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

※評価基準:受講態度(授業への参加)については、ソーシャループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。 ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グル

## 次のステージ・関連科目

(1) 関連科目:本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待しま

(2) 次のステージ: 演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講 模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。 専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。 ※ポリシーとの関連性 /演習] 科目名 期別 曜日・時限 単 位 ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ 目 後期 火1 2 基 本情 担当者 対象年次 授業に関する問い合わせ -平良 純子 各教員にE-mailで連絡すること。 連絡先は授業初回で提示する。 報 2年 メッセージ ねらい ①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と 展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態(情報検索・ブレーンストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ 学 び  $\sigma$ 到達目標 準 ①事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得②利用者、グループ、地域住民等へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解し、説明で③個別支援計画等、様々な計画の策定方法(プランニングまで)を理解し、説明できる。 具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得する。 説明できる。 学びのヒント 授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション〜他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する〜	
2	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について①3つのモデル	実践モデルとアプローチを復習する
3	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について②ミクロ・メゾ・マクロレベル	SWの対象と展開過程を復習する
4	ケースの発見	ケアマネジメントについて調べる
5	エンゲージメント(インテーク)	ケアマネジメント (障害者)
6	アセスメント①アセスメント・ツールの枠組み、使用方法	ケアマネジメント (高齢者)
7	アセスメント②アセスメントのポイント、ニーズの把握	グループ課題の準備をする
8	プランニング①プランニングの様式、ポイント、手順	グループ課題の準備をする
9	プランニング②支援目標・支援計画	グループ発表の準備をする
10	支援の実施①利用者やその関係者との援助関係の形成	グループ発表の準備をする
11	支援の実施②利用者やその関係者への権利擁護及び支援	実践事例について調べる
12	モニタリング	実践事例について調べる
13	支援の終結と事後評価①支援内容や計画を評価する目的や方法	個別課題に取り組む
14	支援の終結と事後評価②利用者への支援やサービスの評価	個別課題に取り組む
$\frac{1}{15}$	アフターケア	個別課題に取り組む
	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する
: -		

## テキスト・参考文献・資料など

71

 $\mathcal{O}$ 

実

践

テキスト: 『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育

『最新・社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育 学校連盟編、 中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

## 学びの手立て

①履修の心構え:受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。 ②学びを深めるために:本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野(障害・児童・地域・医療等)で体験することを薦めます。

## 評価

Ü

 $\mathcal{D}$ 

継 続 ※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グル ※評価基準:受講態度(授業への参加)については、ソーシャループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。

# 次のステージ・関連科目

(1) 関連科目:本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待しま

(2) 次のステージ: 演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で 模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。

この量が、より付け上に出力でがな場がにたりです。		RAN I DO	L /.	
科目基	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	ソーシャルワーク実習指導 I	後期	金2	2
本	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	•
情報	荻野 太司	2年	授業終了後に教室で受け付けます。 各教員にE-mailで連絡すること。。	

#### ねらい

①ソーシャルワーク実習 I の意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく

| 専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に 理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習 び 得する。

#### メッセージ

実際に実習を行う分野やその利用者を理解するため、また多様な施設や事業所の基本的な理解を深めるために、授業関連だけではなく、各分野(障害・児童・地域・医療等)でのボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。

各自の学びを評価し共有する

/宝駘宝習]

## 到達目標

- 準 ①ソーシャルワーク実習I及び実習指導の意義を理解することができる。 ②実習分野、利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。 ③地域社会における施設・機関の社会的役割等が理解できる。

## 学びのヒント

#### 授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション〜他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する〜	グローバル定義について調べる
2	社会福祉士の価値と倫理: ソーシャルワークのグローバル定義	ー 倫理綱領について調べる
3	社会福祉士の価値と倫理:ソーシャルワークの価値規範・倫理綱領	
4	社会福祉士の価値と倫理:個人のプライバシーの保護と守秘義務等	スーパービジョンについて調べる
5	ソーシャルワーク実習 I 及び実習指導の意義:スーパービジョンについて	グループで施設理解に向け準備する
6	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習の主旨について	グループで施設理解に向け準備する
7	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解①高齢者施設	施設の法的根拠について調べる
8	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解②障害児者施設(児童)	施設の法的根拠について調べる
9	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解③障害児者施設(就労・地域生活支援)	施設の法的根拠について調べる
10	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解④児童福祉施設	コミュニケーション技法を調べる
11	利用者の理解:ソーシャルワークの知識・技術	コミュニケーション技法を調べる
12	利用者の理解:基本的なコミュニケーション技術	コミュニケーション技法を調べる
13	利用者の理解:基本的な面接技術	ボランティア体験をまとめる
14	記録の重要性と書き方①:実習記録への記録内容	ボランティア体験をまとめる
15	記録の重要性と書き方②:実習記録への記録方法	総括レポートをまとめる

## テキスト・参考文献・資料など

16 まとめと振り返り

『最新・社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 1 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

## 学びの手立て

学

び

0

実

践

- ①履修の心構え:受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。課題にはしっかり取り組み、提出期限を守ってください。 ②本科目は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②社会福祉士基礎科目については、科目間の関連性を意識して受講してください。特に並行して受講する「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ」等は重要です。

## 評価

学 Ü

 $\mathcal{D}$ 

継

続

※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

※評価基準:受講態度(授業への参加)については、ソーシャルワーグループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。 ソーシャルワーク実習指導の目的・内容・方法を理解し、

- ・本科目の発展的科目は「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」です。科目間の関連性を意識し受講し、「ソーシ ャルワーク実習」がスムーズに展開できるように学びましょう。
- ・現場での実習を通して、<福祉・医療・保健・教育の各分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼

との豊からが明正と記がとがらいただけと		RAN I DO	L /.	
<i>~</i> 1	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
日 基 本	ソーシャルワーク実習指導 I	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	2年	授業終了後に教室で受け付けます。 各教員にB-mailで連絡すること。	

#### ねらい

び

①ソーシャルワーク実習 I の意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく

専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習 得する。

## メッセージ

実際に実習を行う分野やその利用者を理解するため、また多様な施設や事業所の基本的な理解を深めるために、授業関連だけではなく、各分野(障害・児童・地域・医療等)でのボランティア活動等を 、各分野(障害・児童・地域・医療等)でのプ 通して積極的に施設等へ足を運んでください。

/宝驗宝型]

## 到達目標

- 準 ①ソーシャルワーク実習I及び実習指導の意義を理解することができる。 ②実習分野、利用者(高齢者・障がい者・児童など)の理解が深まる。 ③地域社会における施設・機関の社会的役割等が理解できる。

## 学びのヒント

#### 授業計画

口	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	授業の目的を確認する
2	実習及び実習指導の意義と目的	実習の意義と目的について調べる
3	「SW実習 I 」に向けてのオリエンテーション I (主旨説明等)	オリ資料の事前に確認する
4	情報収集の方法	実際に情報収集を行う
5	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解①社会福祉協議会	施設の法的根拠等について調べる
6	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解②病院・居宅介護支援事業所	施設の法的根拠等について調べる
7	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解③障害福祉サービス事業所	施設の法的根拠等について調べる
8	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解④放課後等デイサービス事業	施設の法的根拠等について調べる
9	社会福祉士の価値と倫理:SWの倫理綱領、個人のプライバシーの保護と守秘義務等	倫理綱領等について調べる
10	「SW実習 $I$ 」に向けてのオリエンテーション $\Pi$ (直前指導等)	オリ資料の事前に確認する
11	実習プログラム(3段階)の理解	実習プログラム(3段階)を調べる
12	実習目標及び実習計画書の作成	実際に実習目標等を立てる
13	利用者の理解:基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術	コミュニケーション技術を調べる
14	記録の重要性と書き方:実習記録の内容と方法	記録について調べる
15	実習中起こり得る問題	実習目標等をまとめる
16	まとめと振り返り	実習目標等をまとめる

# テキスト・参考文献・資料など

参考図書;『最新・社会福祉士養成講座8 ソーシ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規。 ソーシャルワークの実習指導 ソーシャルワーク実習[社会専門]』、 その他の参考文献・資料等は授業時に随時紹介します。

# 学びの手立て

び

 $\mathcal{D}$ 

実

践

- ①履修の心構え:受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。課題にはしっかり取り組み、提出期限を守ってください。 ②本科目は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②社会福祉士基礎科目については、科目間の関連性を意識して受講してください。特に並行して受講する「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ」等は重要です。

## 評価

Ü  $\mathcal{D}$ 継 続 ※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、授業への主体的参加(30%)、受講態度(10%) ※評価基準:受講態度(授業への参加)については、ソーシャルワーク実習指導の目的・内容・方法を理解し、 グループ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。

- ・本科目の発展的科目は「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」です。科目間の関連性を意識し受講し、「ソーシャルワーク実習」がスムーズに展開できるように学びましょう。 ・現場での実習を通して、<福祉・医療・保健・教育の各分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材>になることを目標に掲げて学びを深めることを期待します。

この量が多が開発し出がるがらについりと及がする。		RAN I DO			
科目基	科目名	期 別	曜日・時限	単 位	
	↑ ソーシャルワーク実習指導 I -	後期	金2	2	
┃本	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	•	
情報	岩田 直子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。 各教員にE-mailで連絡すること。。		

#### ねらい

①ソーシャルワーク実習 I の意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく

| 専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に 理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習 び 得する。

#### メッセージ

実際に実習を行う分野やその利用者を理解するため、また多様な施設や事業所の基本的な理解を深めるために、授業関連だけではなく、各分野(障害・児童・地域・医療等)でのボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。

/宝駘宝習]

## 到達目標

準

①ソーシャルワーク実習I及び実習指導の意義を理解することができる。 ②実習分野、利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。 ③地域社会における施設・機関の社会的役割等が理解できる。

### 学びのヒント

#### 授業計画

"				
回	テーマ	時間外学習の内容		
1	オリエンテーション〜他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する〜	グローバル定義について調べる		
2	社会福祉士の価値と倫理:ソーシャルワークのグローバル定義	ーニー 倫理綱領について調べる		
3	社会福祉士の価値と倫理:ソーシャルワークの価値規範・倫理綱領	一		
4	社会福祉士の価値と倫理:個人のプライバシーの保護と守秘義務等	スーパービジョンについて調べる		
5	ソーシャルワーク実習 I 及び実習指導の意義: スーパービジョンについて	グループで施設理解に向け準備する		
6	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習の主旨について	グループで施設理解に向け準備する		
7	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解①高齢者施設	施設の法的根拠について調べる		
8	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解②障害児者施設(児童)	施設の法的根拠について調べる		
9	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解③障害児者施設(就労・地域生活支援)	施設の法的根拠について調べる		
10	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解④児童福祉施設	コミュニケーション技法を調べる		
11	利用者の理解:ソーシャルワークの知識・技術	コミュニケーション技法を調べる		
学 12	利用者の理解:基本的なコミュニケーション技術	コミュニケーション技法を調べる		
13	利用者の理解:基本的な面接技術	ボランティア体験をまとめる		
14	記録の重要性と書き方①: 実習記録への記録内容	ボランティア体験をまとめる		
$0 \overline{15}$	記録の重要性と書き方②: 実習記録への記録方法	総括レポートをまとめる		
16	まとめと振り返り	―――― 各自の学びを評価し共有する		

## テキスト・参考文献・資料など

『最新・社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 1 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

# 学びの手立て

U

 $\sigma$ 

実

践

- ①履修の心構え:受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。課題にはしっかり取り組み、提出期限を守ってください。 ②本科目は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②社会福祉士基礎科目については、科目間の関連性を意識して受講してください。特に並行して受講する「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ」等は重要です。

## 評価

学 Ü

 $\mathcal{D}$ 

継

続

※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

※評価基準:受講態度(授業への参加)については、ソーシャルワーグループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。 ソーシャルワーク実習指導の目的・内容・方法を理解し、

- ・本科目の発展的科目は「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」です。科目間の関連性を意識し受講し、「ソーシ ャルワーク実習」がスムーズに展開できるように学びましょう。
- ・現場での実習を通して、<福祉・医療・保健・教育の各分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼

		RAN I DO	L /.	
科目基	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	ソーシャルワーク実習指導 I	後期	金2	2
Ⅰ本	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	•
情報	情	2年	授業終了後に教室で受け付けます。 各教員にE-mailで連絡すること。。	

#### ねらい

①ソーシャルワーク実習 I の意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく

| 専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に 理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習 び 得する。

#### メッセージ

実際に実習を行う分野やその利用者を理解するため、また多様な施設や事業所の基本的な理解を深めるために、授業関連だけではなく、各分野(障害・児童・地域・医療等)でのボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。

各自の学びを評価し共有する

/宝驗宝習]

## 到達目標

- 準 ①ソーシャルワーク実習I及び実習指導の意義を理解することができる。 ②実習分野、利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。 ③地域社会における施設・機関の社会的役割等が理解できる。

## 学びのヒント

#### 授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション〜他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する〜	グローバル定義について調べる
2	社会福祉士の価値と倫理:ソーシャルワークのグローバル定義	ーー 倫理綱領について調べる
3	社会福祉士の価値と倫理:ソーシャルワークの価値規範・倫理綱領	一 守秘義務について調べる
4	社会福祉士の価値と倫理:個人のプライバシーの保護と守秘義務等	スーパービジョンについて調べる
5	ソーシャルワーク実習 I 及び実習指導の意義: スーパービジョンについて	グループで施設理解に向け準備する
6	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習の主旨について	グループで施設理解に向け準備する
7	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解①高齢者施設	施設の法的根拠について調べる
8	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解②障害児者施設(児童)	施設の法的根拠について調べる
9	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解③障害児者施設(就労・地域生活支援)	施設の法的根拠について調べる
10	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解④児童福祉施設	コミュニケーション技法を調べる
11	利用者の理解:ソーシャルワークの知識・技術	コミュニケーション技法を調べる
12	利用者の理解:基本的なコミュニケーション技術	コミュニケーション技法を調べる
13	利用者の理解:基本的な面接技術	ボランティア体験をまとめる
14	記録の重要性と書き方①:実習記録への記録内容	ボランティア体験をまとめる
15	記録の重要性と書き方②:実習記録への記録方法	総括レポートをまとめる

## テキスト・参考文献・資料など

16 まとめと振り返り

『最新・社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 1 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規

参考文献・資料等:授業時に随時紹介します。

# 学びの手立て

学

び

0

実

践

- ①履修の心構え:受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。課題にはしっかり取り組み、提出期限を守ってください。 ②本科目は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②社会福祉士基礎科目については、科目間の関連性を意識して受講してください。特に並行して受講する「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ」等は重要です。

## 評価

学 Ü

 $\mathcal{D}$ 

継

続

※評価方法・割合:課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度( 10%)

※評価基準:受講態度(授業への参加)については、ソーシャルワーグループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。 ソーシャルワーク実習指導の目的・内容・方法を理解し、

- ・本科目の発展的科目は「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」です。科目間の関連性を意識し受講し、「ソーシ ャルワーク実習」がスムーズに展開できるように学びましょう。
- ・現場での実習を通して、<福祉・医療・保健・教育の各分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼